

2014.6.7

第6回名大郷土研究会OB会総会イベント
「信長の築いた小牧山城を訪ねる」 参考資料

案内人 西川

日時 2014年6月7日(土) 午後1:30-4:30

視察場所 小牧山城及び周辺

参加 16名

踏査コース

- ① 名鉄小牧駅スタート
- ② 駅前から上街道を通過して小牧宿脇本陣 岸田家へ (駅から15分)

小牧山城の歴史

永禄6年(1563)織田信長による小牧山に城築城に伴い小牧山南麓に城下町を整備。清洲からの移住や社寺の分祀等が行われた。しかし4年後に美濃の斎藤龍興を攻め滅ぼし稲葉山城に移り小牧山城は廃城となる。

天正12年(1584)小牧・長久手の合戦で犬山方面から南下する秀吉軍に対抗して、織田信雄・徳川家康連合軍が小牧山城を改修して陣城を築く。

その後両陣営は和解し、小牧山城は再び廃城となる。

江戸時代、尾張藩領となり一般の入山が禁止されたため、山中の堀や土塁など残存状態は非常に良好で城郭史上貴重な資料となっている。

小牧宿の整備

名古屋と中山道を結ぶ尾張藩の上街道(木曾街道・稲置街道ともいう)沿いに整備された街道。藩主義直は幕府から木曾一円を拝領したため中山道を結ぶ道路を開削。五街道並みの機能を備え、下町、中町、本町、横町、上之町と形成。

寛永2年(1625)義直は御殿を設け、寛文7年(1667)二代藩主光友は駒市を開設、芝居の興業も許可するなど宿は栄えた。小牧宿の旅籠は7軒。

岸田家住宅(小牧市指定有形民俗文化財) <別添パンフ参照>

江戸時代の小牧宿の民家の姿を伝える貴重な家。築後200年。

岸田家は脇本陣としての機能も果たす。

昭和63年に小牧市有形民俗文化財に指定された。

- ③ 周辺史跡 岸田家から5分

蟹清水砦跡

信長による小牧山城築城の際に信長の武将 丹羽長秀の屋敷跡。

小牧・長久手の合戦時に小牧山に陣をしいた織田信雄・徳川家康連合軍がここに砦を築く。砦の規模は東西46間、南北61間、昭和20年代頃までは堀跡、土塁跡などが残っ

ていた。江戸時代には小牧御殿の庭園の一角になって、清水が湧き、蟹もいたらしく蟹清水と呼ばれていた。現在は砦跡を示すものや清水は残っていない。

小牧御殿跡

寛永2年に尾張藩祖徳川義直公（家康の第九子源敬公という）が小牧山を望む風光明美なこの地に別邸を営み小牧御殿として度々来遊された。犬山などに行く時に宿泊や休憩所として利用された。天明2年(1782)にはこの一角に「小牧代官所」が設けられた。

西町の稲荷堂（小牧市指定有形文化財） 小牧御殿跡から 15 分

元は名古屋市の建中寺にあった御霊屋の拝殿を明治初期に移築した。

明治34年に豊川稲荷をおまつりしたため、一部改造されているが内部の装飾などは華麗で天明7年の建築当初の姿をよく残し、霊廟建築権現造りの建物として貴重なもの。

④小牧山山麓の大手口から小牧山城登城、歴史館視察と史跡公園を散策

西町稲荷堂から小牧山城大手口まで 20 分 <別添パンフ参照>

小牧山城 視察 40 分

信長当時の廓跡、屋敷跡、土橋、大手道、空堀跡、井戸跡等

家康当時の土塁、堀跡、虎口等

信長の城づくり 主郭地区発掘調査からわかったこと

小牧市歴史館 視察 30 分

尾張平野を一望に見渡せる絶景 天下をとった気分になれるかも
まずはご覧ください。

⑤小牧山城から虎口を出て小牧駅に戻る。 小牧山城山北橋口から 30 分

途中小牧神明社を視察

小牧神明社

祭神は天照大神、永禄6年（1563）信長が清須から小牧山へ居城を移した際に災厄除けのため、清洲にあった御園神明社を守護神としてこの地に分祀した。

小牧長久手の合戦では織田信雄・家康連合軍が崇敬したといわれている。

⑥名鉄小牧駅到着 16時頃

小牧駅 16:29 発に乗車, 平安通り駅で地下鉄に乘換へて名古屋 17:10 着。

総会会場名鉄百貨店 9F バンケットルームへ。

お疲れ様でした。